

11. 戦略的研究プロジェクト推進費による活動

テーマ 2：地域課題の解決を目指す研究

事業名「生活習慣と Multidimensional frailty の関連の解明・日本一の健康長寿県構想に寄与するエビデンス構想への取り組み」

研究代表者：立木隆広

共同研究者：島田郁子 廣内智子 上坂真弓 戸崎精 小澤若菜
川本美香 高橋真紀子 中井あい 加藤昭尚

1) 事業の趣旨

世界的に高齢化が進む現代、フレイル（frailty）は最も重要な健康問題の一つとなっている。近年、フレイルは、身体的フレイルのみならず多面的な（身体的、精神・心理的、社会的）フレイル（Multidimensional frailty）として捉える考えが浸透してきている。生活習慣の悪化は、フレイルのリスク要因として注目されている。しかし、生活習慣と Multidimensional frailty の間の関連についてのエビデンスは不足している。

そこで我々は、生活習慣と Multidimensional frailty との間の関連を検討するために地域在住者を対象としたコホート研究を立ち上げ、エビデンスを構築していくことを計画した。本研究では、地域在住者において、生活習慣と Multidimensional frailty との間の関連を明らかにし、この結果を基に新たなフレイル予防の立案を行うことを目的とする。

高知県では、「日本一の健康長寿県構想」の下で幾つかの事業が進められている。その一つとして「健康寿命の延伸に向けた意識醸成と行動変容の促進」があり、その中で取り組んでいるのがフレイル予防の推進である。日本一の健康長寿県構想の第 4 期 Ver.3 でのフレイル予防の推進の課題でも Multidimensional frailty の予防が必要と挙げられている。本研究は、この課題に対してどのような予防が必要であるかを探究するための基盤情報を先駆的に検討する挑戦的な研究であり、本研究成果をもって日本一の健康長寿県構想に寄与することを最終目的としている。

2) 方法

本事業は、生活習慣と Multidimensional frailty との間の関連を検討するための地域在住者を対象としたコホート研究のベースライン研究として位置付けた。研究デザインは横断研究とした。対象は地域在住 40 歳以上の日本人とした。説明指標を生活習慣とした。結果指標は、Multidimensional frailty 及びその各要素である身体的、精神・心理的、社会的フレイルの有無とした。評価方法は、Multidimensional frailty 及びその各要素である身体的、精神・心理的、社会的フレイルの有無を結果指標、生活習慣を説明指標として、交絡要因を調整してロジスティック回帰モデルを用いて関連の評価を行う。

3) 令和 6 年度の活動

- ・調査の実施
- ・調査から得られた情報の整理

4) 令和 7 年度の活動予定

2 年間の情報を合わせたデータセット作成し評価を行う。報告書等をまとめ活動結果を公開する。